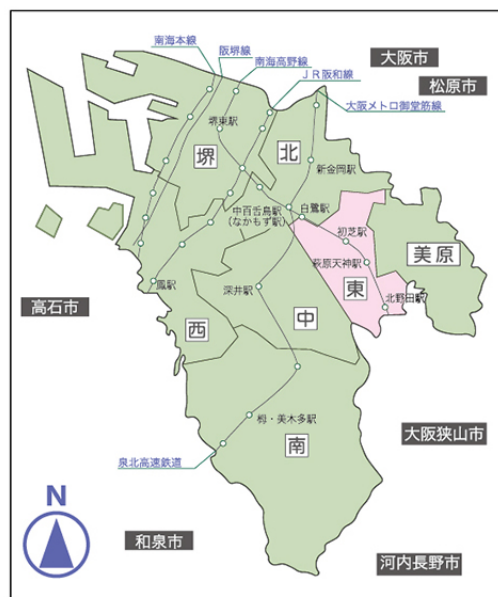


東区の概要

堺市東区は市域の中央東部に位置し、南部は大阪狭山市と隣接しています。地域の大部分は標高 30m ~ 100m の羽曳野丘陵につづく緩やかな丘陵地形になっており、高野線沿線を中心に計画的に開発・整備された住宅地が広がる一方、区域北端を通る大阪中央環状線沿道には田園地帯と市街地が共存しています。また、区域西端の西高野街道筋では一部に往時の面影を残しているほか、大和川水系に向かって流れる西除川や点在するため池などがあり、市街地内に貴重な自然環境が多く残っています。



～数字で見る東区～

(令和4年1月1日 推計人口)

- 人口 … 84,708人
- 世帯数 … 37,040世帯
- 人口密度 … 8,075 人 / km²
- 面積 … 約 10.49 km²



東区の地名あれこれ

地名には、それぞれ名づけられたわけがあり、それによって、その土地の歴史や文化を知ることができます。むかし、堺は、和泉、河内、摂津の境にあったことから、「さかい」と名づけられました。

東区内の地名の由来を一部ですがご紹介します。

登美丘

昭和25年4月に野田村と大草村が合併。合併委員会が新しい町名を募集し、登美丘町に決定しました。この辺りは、江戸時代の元禄の頃から新田開発が行われ、丘陵地の景色の良い所で、この丘に登ると眺めも心も美しくなるという意味がこめられています。

野田

南北朝の頃、高野線北野田駅の南の方、西除川のほとりに野田城がありました。この辺りは、荘園時代「野田の荘」といわれ、昭和25年に登美丘町となるまで、野田村となっていました。現在は北野田、南野田の地名が残っています。

白鷺

昭和40年頃に団地が造成されましたが、それまでこの辺りは田ばかりで、高野線の電車に乗ると、青々とした田に白

鷺が舞い降りて美しい風景だったので白鷺団地と名づけられました。その後、平成9年に町名として採用され、白鷺町ができました。

日置荘

明治22年に新しい町村制ができて、北、原寺、西、田中新田の村々が合併しました。この辺りは、むかし日置氏の荘園であったことから、合併のとき日置荘と名づけられました。

南八下

明治22年の町村制によって八上郡の小寺、大饗、石原、菩提、野尻の村々が合併しました。八上郡の下にできた村ということから「八下」、南にあるから「南八下」となりました。

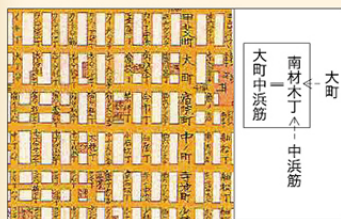
(堺商工会議所発行「地名あれこれ」などより抜粋)

なぜ、堺市では美原区域以外は「丁目」じゃなくて「丁」なの？

理由をはっきり示す資料はありませんが、一説では、美原区域を除いた堺の町名に丁目の「目」がつかないのは、江戸時代の「元和の町割り」にそのルーツがあると考えられています。

元和元年(1615年)、大坂夏の陣で全焼した堺は、徳川家康により、南北の大道筋、東西の大小路通を基軸として、碁盤の目の形に町割りされ、整然とした町に生まれ変わりました。これを元和の町割りといいます。

通称名も含めた町の名は、多いときで400近くにも及び、覚えにくいので、大道筋(南北の大通り)に面した24の町名と縦筋の通り名とを合成させた、ちょうど現在の京都のような呼び方を通称として使うようになりました。例えば、「南材木丁」を「大町中浜筋」というように。(下図参照)



さらに明治5年(1872年)の町名改正では、町名をより分かりやすくするために、独立した町名のかわりに、当時の町組(ち

ようぐみ=連合自治会)を生かし、2街区ほどに再編し、大道筋に面した町名をもとに、東側は〇〇町東1丁、東2丁…、西側は、〇〇町西1丁、西2丁…と変えました。

それぞれ独立した町が東1丁や西2丁…などに変わったため、町を細分する意味合いを持つ「丁目」はなじまず、町と同格の意味で、「丁」を使ったものと思われます(1町、2町とも呼ばれていました)。先の例の「南材木丁」は、「大町西1丁」に変わりました。(下図参照)



堺市では、平成17年2月に合併した美原区域を除いて、泉北ニュータウンのような新しい町にも「丁」を使っていますが、現代にも踏襲されてきたわけです。

ちなみに、昭和の初めに、「目」をつけるかどうかで市議会で論議されたことがあります。やはり由緒のある「丁」に統一しようということになった経過もあります。

「ありがとう」の輪を広げよう事業

東区では、子どもから高齢の方まで多くの区民の皆さまに、身近な人や日常生活のささいな事柄に対し、感謝の気持ちを持ち、また、その気持ちを言葉にして伝えていただきたいという思いから、「ありがとう」の輪を広げよう事業を推進しています。

同事業のPRとして平成25年3月に公募によりロゴマークとキャッチコピーを決定しました。今後もこのロゴマークとキャッチコピーを活用し、皆さまとともに、思いやりや感謝の気持ちがあふれるまちづくりを推進していきます。

キャッチコピー

笑顔といっしょに「ありがとう」

ロゴマーク

